

慈眼寺たより

第25号
平成30年12月
春日井市下市場町
「慈眼寺」
電話 81-6801
編集 伊藤秀文

☆僧堂生活(4) 托鉢★

春日井律舟

日常と変わった行事のひとつに托鉢がある。毎月一日、十五日、二十五日と寒の入りから立春までの一カ月の間、手甲脚絆に網代笠で左手に応量器(食事用の器)を掲げ、右手に鈴を持ち、縦一列に隊列を組み偈文をお唱えしながら町を練り歩く。寒中托鉢はよくカメラマンの被写体にされる。私も自坊に帰り何となくネット検索をしたら自分が写っている写真を発見した。



お寺の近くは「流し」といって偈文をお唱えしながら歩いて行くとご近所の方に呼び止められる。信仰の篤い土地柄か千円札の方も多し。お金を入れて頂くとまた別の偈文を唱える「財法二施 功德無量 檀波羅蜜 具足 円満 乃至法界 平等利益」施す側の財と受ける側の行はどちらも布施である、その心が世界に満ち、遍く人々に利益がめぐらしますよという意味です。

偈文を唱え、ふと見ると本当に熱心に拝まれているので逆にこちらが拝みたくなる心境になってしまふ。

輪島市など少し遠くへ行くと「かど付け」といってこちらは家々を直接廻る。扉を少し開けて大声で挨拶して

お唱えを始める。反応は様々ですが一期一会が楽しい。誰もいないと思えば帰ろうとする。小学校低学年くらいの子共が駆けて来て「待って下さい、お坊様！いくらですか？」と真直ぐな顔で聞いてきた。特に決まっていなくて言うとなれば部屋に戻り百円を二枚入れて熱心に手を合わせる。二枚目の意味を思うとほっこりした。

まったく似たような反応をした女子高生もいて今時こんなジブリ映画みたいな娘いるんだと内心驚いたりもした。

昔は食べ物だったからとお饅頭を入れてくれるおばあちゃんもいた。

同期の若い雲水はかど付けで主婦の方に「お金を払う事によってあなたは私に何をしてくれるんですか？」と問われ、思わずたじろぎ何も答えられずにいると「答えられないんですね、では出直しなさい」と追い返されたと言

って凹んでいた。しかしその問かけは今の世間の一般人の仏教や信仰、僧侶に対する感覚だろうと思う。

結論を言うと托鉢の坊主はお経を読むだけで何もしていない。お礼も言わない。お礼は言うなと言われている。布施行という徳を積んでいただく手伝いをしていこう事だ。勿論、雲水の懐に入る訳ではない、しかし托鉢が善行を促す行為ならば、して頂いた善行にお礼は必要ではないかという事を役寮さんに言ってみた事がある。「そう思うならそうしなさい」と言われたので私はお礼を言う様にしていった。難しく考えるのは苦手だ。

来年もよろしく お願いします

檀方総代

伊藤辰男

々

伊藤久幸

々

伊藤秀文

々

伊藤正廣

々

大野和義

々

大野悟

住職

木村廣孝

徒弟

春日井浩道

春日井律舟

★お墓について考える☆

住職 春日井浩道

私は最近、霊魂は不滅であると考えようになつてきました。根拠も何もありませんが、そう考えることが、実に気持ちを楽しめるからです。例えば、死んだあの人にこれを伝えておけば良かったというような場合でも、あつちへ逝つた折に伝えればいいやとか、あちらで謝ればいいのか問題を先送りできることなのです。なんとという雑で不真面目な奴だと思われるかもしれませんが、まるで小学生が宿題を明日やればいいと言っているようなものです。

しかし、考えてみると、人間の生活なんて、後悔の連続のようなものです。いちいち思い詰めて反省していたら、それこそ鬱になつてしまいます。取り返しのつかない事（これが実に多いのです）もまあ、今度やり直せばいいやと思えば実に気楽になるの

です。ただ、あまり来世を考えすぎると、来世のために現世を犠牲にするというか、どこかのテロリストのような考えになつてしまつても困ります。死んだ先は理論不要というか、死んでみなければわからないが、心だけは存続すると考えるのです。ただ、魂は残るとただそれだけのお話です。どこかの大学病院の大先生が、患者の臨終のとき「今、お母様の魂が出ていかれました」と遺族に告げられるそうですが、これなども遺族にとつてはどんなに心が安らぐことでしょうか。

そうすると、遺体はただの抜け殻です。以前、土葬の頃は、埋め墓と参り墓の二つがあつて、埋め墓の方は、それこそ遺体の捨て場に近く、おぞましい場所で、新たにお棺を埋める穴を掘ると、ご先祖様たちがゴロゴロお出ましになつたこともありました。そして参り墓の方は寺院の境内や、その他の空き地、地

方によってはそれぞれの屋敷の片隅に設けられるところもあるようです。こちらが魂の抛り所になります。ですからみんなはこちらの方より大事にしました。

そして、火葬の時代になると、埋め墓は不要となり、わずかに残つた火葬の灰を収める場所としてお墓が機能するようになりました。体の主な成分である炭素は、温室効果ガスである二酸化炭素になつて、それこそ千の風に乗つて世界中を駆け回つているのです。これも素晴らしいではありませんか。

ただ最近では、家族が核家族になり、しかもそれぞれが一代限りの家族ということ、連綿と伝わるものが血以外になくなつてしまいました。昔は田んぼと一緒にお墓も相続したものです。「先祖代々」と書いてありますが、その維持はやはり大変なことなのでしょう。姓が変わつても娘さんの家族が維持し

てくれればいいほうです。やはり世の中が変わつたというか、家族制が変わつたというしかないようです。何度も同じような話になつてきませんが、やはり「先祖代々の墓」を個人で維持するのは大変な時代になつたようです。それでもお墓は魂の抛り所と考えるなら、いっそのこと富士山がお墓とか、地球が俺のお墓と考えるのも楽しくていいのではないのでしょうか。

〈青柳歌壇・俳壇〉

● 来春に平成終わり新元号しつかり
刻め恒久平和
● 老い厳し公的負担増え続け目減り
するの虎の子年金

今井正

● 秋の野路逝きたりし人ら夢に頭つ
覚めれば寂しき朝の始まる

た

● 青柳山観音様の月見かな
● 合歡の花恥じらいながら裏返る

伊藤清雄

☆ガンの話★

私の祖母にあたる人はガンで亡くなった。先代住職も悪性リンパ腫という血液のガンで死んだ。母もガンを持ちながら老衰で死んだ。日本人の半分近くはガンで死ぬそうである。まあ、考えようによってはガンでなければ死なないほど長生きできるようになったということか。そして最近ではガンになっても十年以上生きる人も多くなっている。昔は皆さん二三年でなくなったのに、やはり、検査や治療の技術が進歩したのだろう。

最近、「がんはできるなぜできるのか」という本を読んだ。動物の体は一つの受精卵から順に細胞分裂して、それぞれの形になっていく。指のところに配置された細胞は指以外のものにならない（発生）。これで生き物の形はそれぞれに決まるのである。そこから辺の設計はDNAの遺伝情報に書いてあるようだ。

ところがこの遺伝情報というのは自然の中の刺激によって突然変異をする。放射線やらタバコなどの化学物質、さらにはウイルスやピロリ菌なども原因になるといふ。イギリスでは昔、煙突掃除夫の間で陰嚢ガンが流行ったこともあったという。この突然変異を受けた細胞は、生き延びることができず殆どは死んでしまうそうさ。自動車を鉄砲で撃つたことを考えてみよう。タイヤやガソリンタンクに当たれば走れなくなってしまう。ところが、まれにはブレーキに当たるようなことがあって、暴走し始める。

この暴走にもいろいろあって、ただ細胞だけがやたら増えるもの、それでもその分をわきまえているなら、それは良性腫瘍にとどまる。いわゆるコブである。これがガンになるためには浸潤性と転移性を獲得する。浸潤とは、地面に水がしみこむように、

ほかの組織を壊すたんぱく質を出して、その隙間に自分が入り込むのだ。動物の組織は細胞の協調でできていたのに、それを破壊して自分さえよければという態度である。なんだかどこかの大統領のような振る舞いである。

また細胞は組織の一部としてでなければ生きられないのに、がん細胞になると一粒でも生きられるようになる。血管の中を転がっていき、どこかで根を張って増殖するのが転移である。

尤も、体の方も負けていなくて、免疫などでいろいろ抵抗するようであるが、がん細胞によってはその抵抗を封じ込めるたんぱく質を作るのだという。こうなると、宿主から独立した別の生き物のようです。そしてがん細胞もどんどん突然変異するので、抗がん剤も突然効かなくなってしまうこともあるという。医学の進歩を応援するしかないだろう。

平成三十一年度年忌表

来年の年忌は次のとおりです。お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
三十七回忌	昭和五十八年
四十三回忌	昭和五十二年
四十七回忌	昭和四十八年
五十回忌	昭和四十五年

各戸別の年忌はホームページでも見られます（過去帳閲覧）。

行事予定

- 二月十一日 大般若会
正午から詠讚歌奉詠
一時から法要、参拝者には健康饅頭がもらえます。
- 二月十五日 涅槃会
十時から法要と詠讚歌奉詠
- 四月八日 灌仏会
十時から法要と詠讚歌奉詠
甘茶を頂いてください。
- 八月十八日 お施餓鬼
棚経は八月十日くらいからです。詳しくは次号でご案内します。



ドローンで

★世相雑感☆

日産自動車のゴーンという会長が捕まりました。真相は雲の上のことなのでよくわかりませんが、なんでも何十億円という報酬を財務報告書に記載しなかったというところのようです。

彼は大変な負債を抱え倒産寸前であった日産をあっという間に救済したとして救世主扱いされています。日本社会で育った日本の経営者では、情実に縛られてできなかつたコストダウンを、日本社会と無縁な男が実現したのでしよう。一万人もの

労働者と多くの下請けを泣かせました。それでも会社全体が倒産するよりはマシだったのででしょう。

ここまでは良かったのですが、段々と俺が俺がという姿勢が目立つようになり、側近を使ってお手盛りで何十億という報酬を取り、また会社の金も私的に流用されるようになってきました。人事権を握られているため、社長以下が何も言えず下を向いているだけだったのが、さすがにこれではと思つたのでしよう、検察の力を借りて追い落としにかかりました。立て直しさえしてもらえば、あとは俺たちでやっつけていけると思つたのでしようか。まあ、クーデターというところでしょう。

ところで、日本の検察は思わぬところで動きます。以前ではライブドアや村上ファンド事件など胡散臭い奴が引つ掻き回すような事態になると、お出ましになって

矯正しました。今回も、取締役会で権限をはく奪する間拘束しておいてもらえば、目的は達せられたのでしよう。何しろ面と向かつては怖くて何も言えない相手なのです。なんだか頼まれて出てきたようで釈然としません。本当なら森友事件で文書改ざんした財務省のお役人なども捕まえてほしいような気がします。

この点、大統領に押揃えられても突っぱねるアメリカの最高裁判所は凄いですね。やはり権力の分立はきちんを守つたほうが国民の信頼は上がります。それがひいては愛国心の涵養になると思つたのですが。

☆編集後記★

今回はあまりお寺の新聞らしくなくなつてしまいました。原稿を頼んでいううちに時間が過ぎ、あつという間に年末です。結局自分で書く羽目に。こんなところですが、いつも原稿を募集していますのでよろしく。

住職になつて三十年にもなろうとしているのに、いまだにお釈迦様の言われたことがよくわからない。彼は三十五歳くらいで悟りを開き、あとはそれを何十年も説法として回られたようなんですが、その中身がさっぱり私には見えてこない。この分だと一生見えないかも。良い年をお迎えください。

お仏膳の受付をしています

来年の月命日お仏膳の受付をしています。今まで通り、一年一膳あたり千五百円です。お供えのお菓子はお下がりとしてお持ち帰りください。

「慈眼寺たより」第二十五号

平成三十年十二月十日発行

ホームページ



<http://www.ma.cnw.ne.jp/jigenji/>